

平成22年3月31日

平成21年度実施 地域ICT利活用モデル構築事業 成果報告書

実施団体名 熊本県

事業名称 くまもと安心移動ナビ・プロジェクト

1. 事業実施概要

ユビキタス技術を活用し、やさしく簡単で誰でも使える公共交通や各種施設等（観光地・公共施設・商店街）の案内システムを構築する。

具体的には、FeliCaリーダー／ライターが搭載された「案内パネル」を熊本市内の主要なバス停、観光地・施設等に設置し、FeliCa 機能内蔵型携帯電話をかざすと、目的地までの公共交通機関の乗換案内（乗り場や時刻表）、施設の概要（開園時間や休館日、展示概要や歴史等）、特産品の情報、街歩きコース等の情報が携帯電話の画面に表示される。

2. 目標の進捗状況

指標	目標値	結果の数値	達成状況	計測方法・出展等
H22年3月のシステム 利用回数	3,500 件／ 月	4 万件以上 ／月	○	Web 閲覧数による計測

3. 達成状況が△又は×の場合はその理由

<委託業務説明書>

1 平成21年度事業実施において明らかとなった課題

- ・本県の代表的な特産品を提供する店舗を検索するシステムを構築するため、民間の携帯サイト運営会社と連携したシステムを構築した。
- ・システムで設定した目的地周辺の観光地等を案内する「街歩きコースシステム」を構築するため、熊本国際コンベンション協会が運営する「くまもとさるく」のコンテンツを活用した。

2 自律的・継続的運営の見込み

システムの運営は県が中心となって行うこととしており、運営経費については県の負担金(年800万円程度)を予定している。

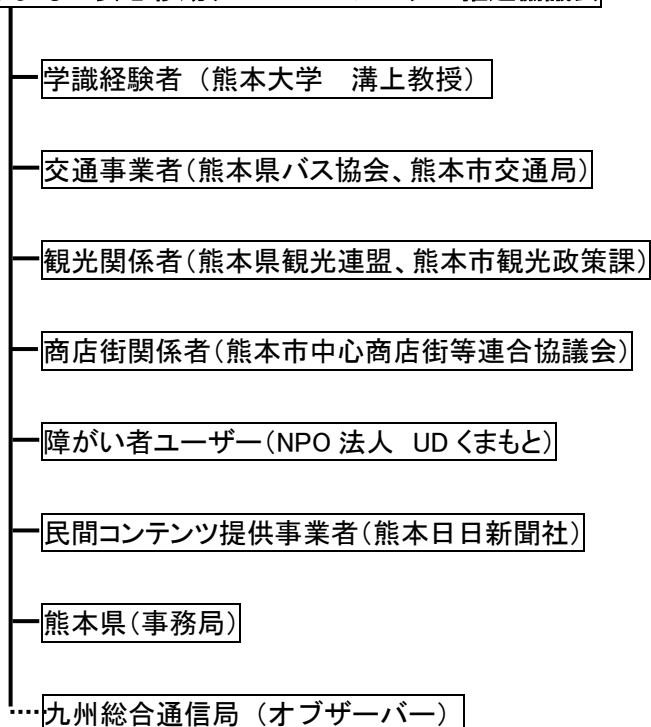
3 今後の展開方針

- ・平成23年2月頃に熊本駅周辺整備と併せ、熊本駅前の3箇所にパネルを設置予定。

<実施体制説明書>

1 実施体制

くまもと安心移動ナビ・プロジェクト推進協議会



2 各主体の役割

No	名 称	役 割
1	熊本大学 溝上教授（座長）	「交通政策」「まちづくり」等に関する学識経験者としての、プロジェクト推進全体に関する助言及び取りまとめ
2	交通事業者	公共交通に関する情報（時刻、乗り場、料金等）の提供や内容に関する助言。バス停、電停へのユビキタス案内パネルの設置協力
3	観光関係者	市内観光施設に関する情報（概要、料金、開園日・時間、イベント等）の提供や内容に関する助言。市内観光施設への案内パネルの設置協力
4	商店街関係者	中心商店街に関する情報（概要、イベント、店舗情報等）の提供や内容に関する助言中心商店街への案内パネルの設置協力
5	障がい者 ユーザー	バリアフリー情報の提供内容に関する助言。観光施設、公共施設に関するバリアフリー情報の提供
6	民間コンテンツ 提供者	民間の携帯サイトを運営している視点から、タウン情報・店舗情報等に関する情報提供内容やシステムの運営方法（ビジネスモデル等）に関する助言
7	熊本県（事務局）	本事業の主務課、関係各部局との調整 協議会の庶務。地域課題に関する施策との調整、委託業務の発注
8	九州総合通信局 （オブザーバー）	地域 I C T 利活用モデル事業を実施における支援・助言等

事業実施進行表

実施内容	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	H22 1 月	2 月	3 月
協議会の 設立準備	→								
協議会開催	△					△			△
システム構築			→	→	→	→	→		
ユビキタス案内 パネル製作					→	→	→		
ユビキタス案内 パネル設置							→		
システム稼働								→	→
報告書作成									→

その他

本事業により構築したウェブサイト又は本事業を掲載したウェブサイト

<http://k-touchnavi.pref.kumamoto.jp/>

平成22年3月31日

平成21年度実施 地域ICT利活用モデル構築事業 システム設計書

実施団体名：熊本県

事業名称：くまもと安心移動ナビ・プロジェクト

1 概要

ユビキタス技術を活用し、やさしく簡単で誰でも使える公共交通や各種施設等（観光地・公共施設・商店街）の案内システムを構築する。

具体的には、FeliCaリーダー／ライターが搭載された「案内パネル」を熊本市内の主要なバス停、観光地・施設等に設置し、FeliCa 機能内蔵型携帯電話をかざすと、目的地までの公共交通機関の乗換案内（乗り場や時刻表）、施設の概要（開園時間や休館日、展示概要や歴史等）、特産品名産品の情報、周遊街歩きコース等の情報が携帯電話の画面に表示される。

2 運用結果

- ・熊本市内中心部や阿蘇くまもと空港の22箇所にパネルを設置し、2月1日からサービスを開始した。
- ・アクセス数は、月4万件を超え、目標値は達成した。

3 課題・改修の必要性

利用を増やすため、システムの周知を図る。

4 その他

特になし